

# 岐阜市のニホンイシガメとヤマトサンショウウオ 保全と普及活動

岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室 / 淡水生物園

## ニホンイシガメ

### レッドリスト

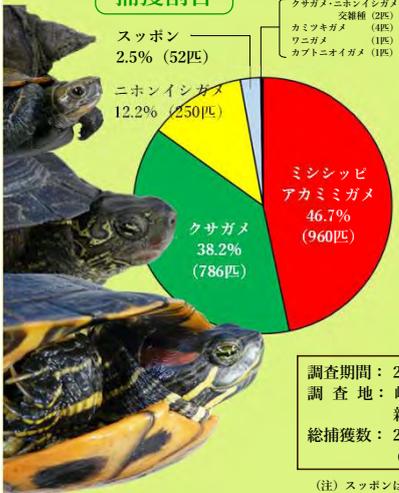
- 環境省版 (2012) : 準絶滅危惧
- 岐阜県版 (2015) : 準絶滅危惧
- 岐阜市版 (2023) : 絶滅危惧Ⅱ類



- 本州・四国・九州などに広く分布
- 近年になり、外来生物のライグマによる捕食被害、クサガメ (外来種) との交雑による遺伝子汚染、ペット飼育目的の乱獲実態が明らかにされ、地域的に絶滅のおそれが高まっている。

### カメの生息実態調査 - 危機にある岐阜市のニホンイシガメ

#### 捕獲割合



#### ワナによる捕獲調査を実施 (岐阜市環境保全課と連携)

- ニホンイシガメ・・・日本固有種
- スッポン・・・在来個体と養殖個体が混在・交雑している可能性が指摘されている。
- クサガメ・・・外来種である可能性が近年指摘されている。朝鮮半島, 中国東部, 台湾にも自然分布。
- ミシシippアカミミガメ (商品名: ミドリガメ)・・・北米原産。外来生物法による特定外来生物に指定予定。

調査期間: 2010年8月~2022年9月 (約12年間)  
調査地: 岐阜大学構内河川・池, 接続する村山川と新堀川を中心に, 岐阜市内全域  
総捕獲数: 2056匹 (再捕獲数は含まず。引取り個体含む)

(注) スッポンは捕獲ワナの形状から捕まりにくく、実際の生息割合を反映していない (過小評価している) と考えられる。

- ミシシippアカミミガメとクサガメが大半、固有種のニホンイシガメはわずか。
- 岐阜大学構内でのミシシippアカミミガメの繁殖を確認  
2004, 2009年: 産卵中のアカミミガメを発見 (回収した卵は、のちにすべて孵化)  
2011~2013年: 孵化直後の幼体を見発見  
毎年: 当歳または数年以内と思われる幼体を多数捕獲
- クサガメも生後数年以内と思われる幼体を多数捕獲、ニホンイシガメの幼体の捕獲は一度もない。
- アカミミガメの増殖と生息域拡大を阻止するため駆除を進め、種構成の動向を追跡調査中。増殖理由を明らかにするため、駆除個体を活用して解剖学的・生理学的手法により調査中。

## ヤマトサンショウウオ

### レッドリスト

- 環境省版 (2012) : 絶滅危惧Ⅱ類
- 岐阜県版 (2015) : 絶滅危惧Ⅰ類
- 岐阜市版 (2015) : 絶滅危惧Ⅰ類



- 西日本地域に広く分布する小型サンショウウオ
- 岐阜県は本種の分布東北限で、生物地理的に貴重
- 岐阜市の個体群は「岐阜市自然環境の保全に関する条例」で「貴重野生動植物種」に指定され、捕獲や採取等は禁止

### 岐阜県のヤマトサンショウウオの現状

- 岐阜県内の生息地・・・岐阜市や揖斐川町など数カ所のみ
- 岐阜市内の生息地・・・住宅地に隣接、産卵場は生活排水等が流入したことがある駐車場沿いのU字溝、2008年の調査時は大型の老齢個体のみ
- 揖斐川町内の生息地・・・産卵場は水濁れが起こることがある、アカハライモリによる卵囊の食害を確認

#### 生息域内外での保全活動

岐阜県立高校, 世界淡水魚園水族館, 岐阜市環境保全課, 岐阜大学が協働して、岐阜市個体群の保全を進める。岐阜市生息地で個体数回復。



- 2003年~ 岐阜市が繁殖確認調査を実施
- 2007年~ 岐阜高校が加わり生息調査, 卵囊の保護および孵化, 孵化幼生の育成・生息地への放流, 生息地の環境対策など
- 2007年~ 世界淡水魚園水族館が飼育開始, 飼育下繁殖の成功, 生息地への放流, 展示・普及啓発活動など
- 2010年~ 危険分散を考慮し, 岐阜県内3カ所に生息域外保全地を整備 (2010年: 水族館敷地内, 2011年: 淡水生物園, 岐阜市市有地)

## 岐阜大学 淡水生物園

2011年完成



- 岐阜市の希少淡水生物を保全し、あわせて保全研究や環境教育を行う場として、岐阜大学構内に整備した 200 m<sup>2</sup>ほどの人工池
- カメ自然飼育エリア, カメ研究飼育エリア, ヤマトサンショウウオ自然飼育エリアからなる

#### 〔活動内容〕

1. 岐阜大学付近および岐阜市のカメの生息実態調査
2. ミシシippアカミミガメ等の外来カメの防除
3. カメ類の繁殖生理に関する研究
4. 岐阜市のニホンイシガメの域外保全
5. 岐阜市のヤマトサンショウウオの域外保全
6. 情報発信・普及啓発



### フリー冊子「ぎふの淡水生物をまもる」発行!

(初版2014年3月発行, 増補改訂版2014年7月発行)

ニホンイシガメやヤマトサンショウウオの保全活動をはじめ、岐阜エリアの淡水生物やその保全・研究などの取り組みを紹介。



PDF版公開中



岐阜の淡水生物保全BOOK  
ぎふの淡水生物園をまもる  
オールカラー 74ページ  
動物繁殖学研究室 編  
2014年発行



# 岐阜県のカミツキガメとワニガメ 発見記録

岐阜大学応用生物科学部 動物繁殖学研究室 / 淡水生物園

## カミツキガメ

外来生物法：特定外来生物

生態系被害防止外来種リスト：総合対策外来種－緊急対策外来種

「総合対策外来種」… 国内に定着が確認されているもの。生態系等への被害のおそれがあるため、国、地方公共団体、国民など各主体がそれぞれの役割において、防除（野外での取り除き、分布拡大の防止等）、遺棄・導入・逸出防止等のための普及啓発など総合的に対策が必要な外来種  
 「緊急対策外来種」… 対策の緊急性が高く、積極的に防除を行う必要がある種

背甲長 約50 cm  
 生息地 カナダ南部、アメリカ東部、メキシコ～コロンビア・エクアドル西部

- 昭和初期から水族館や動物園での展示用として、また1960年代からペット用として輸入されてきた。
- 1990年代、幼体が熱帯魚店や小鳥店などで1800～3800円で多く販売され、当時は安価で入手しやすい種であった。しかし、かなり大きく成長し、肉食性で行動的であることから、成長に伴いペットとしては飼育困難になる場合が多く、遺棄や逸走を招きやすい種でもある。
- 2005年に外来生物法に基づく特定外来生物に指定され、原則飼養等が禁止され、輸入または譲渡し等と放出等も原則禁止されている。一方で、特定外来生物指定を機に、野外放逐が増えたものと思われる。2015年3月には、環境省・農林水産省により発表された、生態系被害防止外来種リストにおいて、本種は1回の産卵数が20～40個と多いため、野外でいったん繁殖し始めると増殖速度は速い。千葉県印旛沼水系、東京都、神奈川県、静岡県、愛知県、大阪府、愛媛県で繁殖または繁殖可能性が高い。特に千葉県では深刻な事態となっている。2022年10月には、岐阜県岐阜市内でも孵化幼体が発見され、繁殖している可能性が非常に高い。

### 岐阜県内のカミツキガメ捕獲記録 (2004～2022)

順	捕獲日	性別	背甲長	体重	捕獲場所
1	2004年4月1日	—	約15cm	—	岐阜市岩崎（用水路）
2	2005年5月23日	—	33 cm	7.8 kg	不破郡垂井町（用水路）
3	2005年7月5日	—	16～18 cm	—	土岐市妻木町（民家の庭）
4	2005年7月11日	—	23cm	—	各務原市蘇原東門町（用水路）
5	2006年6月頃	—	—	—	可児市
6	2006年	—	—	—	土岐市
7	2007年5月19日	雌	33.5 cm <sup>1)</sup>	—	山県市藤倉（しびり川）
8	2007年7月4日	—	27.0 cm <sup>2)</sup>	—	岐阜市柳戸（岐阜大学内の鶴ヶ池）
9	2009年5月11日	雌	27.02 cm	5.55 kg	各務原市那加野町（轟川）
10 <sup>3)</sup>	2010年	—	—	—	羽島市小瀬町（境川付近）
11 <sup>3)</sup>	2011年	—	—	—	羽島市小瀬町（境川付近）
12	2012年7月17日	雌	30.0 cm	7.0 kg	羽島市福寿町（長良川と境川の合流地点）
13	2016年 <sup>3)</sup>	—	—	—	羽島市福寿町（長良川と境川の合流地点付近）
14	2016年5月12日 <sup>4)</sup>	—	40 cm	—	瑞穂市宝江（水路）
15	2017年5月9日 <sup>4)</sup>	—	35 cm	10.7kg	海津市平田町（長良川河川敷）
16	2018年6月9日	雄	27 cm	—	羽島市堀津町（桑原川付近の水田）
17	2018年6月28日 <sup>4)</sup>	雄	30 cm	—	瑞穂市生津（堤防道路路上）
18	2019年6月1日	雄	11.96 cm	296.5 g	岐阜市下西郷（板原川）
19	2020年5月2日	雄	17.1 cm	15.1 kg	岐阜市美鳥町（早田川）
20	2020年7月8日	雄	36.3 cm	9.7 kg	海津市海津町（道路上、交通事故?）
21	2020年8月30日	雄	29.55 cm	5.625 kg	岐阜市木田（伊自良川、カメわな捕獲）
22	2022年10月11日	不明	3.11 cm	8.6 g	岐阜市下瓦木（伊自良川河川敷の堰）

表内の「—」は、記録がない（もしくは残っていない）ことを示す。1) 岐阜県博物館標本番号GPM-Z-13020の背標本を計測。2) 岐阜県博物館標本番号GPM-Z-13980の背標本を計測。3) 県域統合型GISデータの登録情報より。4) 通報を受けて岐阜県担当者で確認した日であるため、捕獲日当日ではない可能性がある。



▲ 2022年10月11日、伊自良川沿いの堰（岐阜県岐阜市下瓦木）で捕獲された孵化幼体



▲ 2020年8月30日、伊自良川（岐阜県岐阜市木田）で捕獲されたカメ調査調査中のものに入った。上がカミツキガメ、下はミンシビリアカミツキガメ（写真提供：野間明加里氏）



▲ 2005年7月5日、岐阜県土岐市内で捕獲されたフロリダカミツキガメと思われる稀なタイプ（写真提供：田上正隆氏）岐阜県内での捕獲例のうち写真記録が入ってきたもので唯一のタイプ。岐阜県を含む全国で発見されているカミツキガメの大半は、ホケイカミツキガメと考えられる。

### 岐阜市内でのカミツキガメ・ワニガメの捕獲場所



番号は表の番号

「岐阜県の動物－哺乳類・爬虫類・両生類・十脚類」(向井貴彦、森部純嗣、楠田哲士、田上正隆 編者)より転載・加筆

## ワニガメ

動物愛護管理法：特定動物

生態系被害防止外来種リスト：定着予防外来種－その他の定着予防外来種

「定着予防外来種」（ワニガメ属全体）… 国内に未定着のもの。定着した場合に生態系等への被害のおそれがあるため、導入の子防や水際での監視、野外への逸出・定着の防止、発見した場合の早期防除が必要な外来種  
 「その他の定着予防外来種」… 国内に導入されているが、自然環境における定着は確認されていない種

背甲長 約80 cm, 113 kg (最大記録)  
 生息地 アメリカ合衆国の南東部  
 (カミツキガメよりも分布域は限定的)



- ワニガメの捕食方法は特徴的で、カミツキガメとは大きく異なり、トラップ式。水底で口を大きく開けて待ち伏せし、口の中のミズ様のルーアーを動かして魚類などをおびき寄せ、近づいてきたところで捕食する。
- 昭和初期から水族館や動物園での展示用に輸入され、その後、1980～1990年代の爬虫類ブームの頃にはペットとしての人気が高まりコンスタントに輸入されてきた。ただ、カミツキガメほど多くはなく、当時の価格もカミツキガメのおよそ倍ほどで5000～10000円で幼体が販売されていた。
- 各地で発見され捕獲されているが、カミツキガメほどでは多くはなく、定着事例は今のところ聞かれない。しかし、2006年に東京都の不忍池、2014年に千葉県の手賀沼で産卵中の個体が発見されている。
- 動物愛護管理法の特定動物（人に危害を加える恐れのある危険な動物）に指定されており、2000年の同法改正において特定動物を飼養保管する場合には動物種・飼養施設ごとに許可が必要となった。特定動物の飼養保管基準の遵守が義務付けられたことで、一部のペット飼育者が遺棄するようになったと思われる。特定動物への指定により輸入量は激減し、現在はペット市場で見かけることはほとんどなくなった。価格も当時の20倍程度に高騰している。今後の野外への放逐の可能性はほとんどないことから、野外の発見個体を着実に取り除くことでカミツキガメ定着のような事態は起こりにくいだろう。しかし、1回の産卵数は8～52個と多いため、野外で繁殖し始める前に駆除することが重要である。
- 本来のアメリカの分布域では、生息地の改変や食肉目的での捕獲等により絶滅の危機に瀕しており、IUCNレッドリストでVulnerable（危急）に指定。

### 岐阜県内のワニガメ捕獲記録 (2003～2022)

順	捕獲年月日	性別	背甲長	体重	捕獲場所
1	2003年7月12日	—	60 cm	—	多治見市赤坂町（用水路）
2	2007年7月30日	—	12.5 cm	390 g	瑞穂市馬場小堤町（下水路）
3	2009年7月9日	雌	29.8 cm	6.65 kg	可児市榑下（榑下川）
4	2012年7月4日	—	—	—	飛騨市宮川町
5	2012年7月14日	—	40.0 cm	13.5 kg	岐阜市岩崎（水田）
6	2012年頃	—	—	—	可児郡御器町
7	2012年頃	—	—	—	羽島市
8	2020年7月7日	雌	48.8 cm	35.2 kg	羽島市桑原町（排水機場）
9	2022年7月27日	雌	30 cm	4.78 kg	岐阜市美鳥町（早田川）

表内の「—」は、記録がない（もしくは残っていない）ことを示す。



2022年7月27日、早田川（岐阜県岐阜市、岐阜北高校横）で発見されたワニガメ（写真提供：日置芳夫氏）



2020年7月7日、岐阜県羽島市の排水機場で捕獲されたワニガメ